

パネル発表「岐阜県での『いのちの授業』実践」

村田 憲彦

平成19年4月から7月にかけて、当獣医師会では県内羽島市教育委員会と連携し、同市内の正木小学校及び羽島中学校に於いて訪問授業「いのちの授業」を実施した。

当時の社会背景として、小中学生による殺人事件、いじめによる自殺の多発、青少年犯罪の増加・凶悪化など生命の尊厳を踏みにじる行為が横行し、子どもを取り巻く環境は憂慮すべき状況にあった。

こうした殺伐とした風潮は教育現場において「命の大切さをどう教えるか」という課題を惹起し、いろいろな試みがなされてきていた。

我々獣医師は、自然・社会環境の中において人と動物の接点に在り、「命の最前線」に在る。その幅広い仕事を通して常に「命」を見つめ・関わってきた。

例えば動物の診療はもとより、動物性蛋白食糧の安定供給と安全安心の確保、人獣共通感染症の予防、食品の安全性の監視や公衆衛生の向上、野生鳥獣保護と自然環境保全、さらには薬の安全性や効能確認のための動物実験や研究など、それぞれの職域において子ども達にも身近な「命」を日常生活の中で見つめてきた。

日本獣医師会が1995年に発表した「獣医師の誓い—95年宣言」では獣医師は「動物の健康に責任を有するとともに、人の健康についても密接に関わる役割を担っており」、「人々がうるおいのある豊かな生活を楽しむことができるよう、広範多岐にわたる専門領域において、社会の要請に積極的に応えていく必要がある」と宣言し、「人と動物の絆（ヒューマン・アニマル・ボンド）を確立するとともに、平和な社会の発展と環境の保全に努める」とうたっている。

当獣医師会においてもこれ

らの実現のため、かねてからいくつかの事業を展開してきた。

その具体例として、学校飼育動物サポート事業と進歩獣無があげられる。学校での動物の飼育体験を介し生命を体感することを通じて、情操教育（心の健康教育）を推めることの必要性和重要性を訴えてきた。そして、その推進に当っては学校と動物医療機関との連携が必要であるところから、動物の健康、児童生徒の安全と健康、動物愛護の三者による専門チーム（三位一体）を組んで学校側への支援をおこなってきた。現在25市町村と業務委託契約を締結し学校飼育動物サポート事業を行っている。また、シンポジウム「学校飼育動物への取組み」は17回目を迎え、教育関係者、獣医師双方に好評を博している。

今回我々は、これらの活動をさらに昇華させたいとして、獣医師が自分の職域を紹介し、如何に命と向き合っているか、社会生活が如何に様々な命の支え合いの上に成り立っているかなどを伝え、多感な小中学生に対し命の大切さを訴え、そして命への感謝や畏敬の念を感じ取っていただきたいと企画し、7シリーズの構成で出前授業を行った。

その結果、受講した児童生徒は大いに興味を示し、学校関係者にも喜んで頂けた。また、マスコミや議会でも取り上げられるなど、「命に関する教育」としては切り口が斬新であるとして各界から好評を頂いた。我々は現在県下各地に広めていき、獣医師の新たな社会貢献の一端にしたいと取り組んでいる。

(岐阜県獣医師会副会長)

